



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第六五号〕

処暑 八月二十三日



晩夏

梅雨明けが遅かった今夏、長雨と天候不順のために夏野菜が値上がりしているようです。そして、神宮の塩作り、採かん作業も影響を受けました。

二見町の御塩浜で濃い潮水を採かん作業は、一年で最も暑いとされる夏の土用、七月下旬の一週間から十日間かけて行われます。大潮の日、五十鈴川の河口、二見町にある御塩浜に海水を引き入れ、その翌日から作業が始まります。潮水を含んだ砂を広げて（蒔く）は、天日に乾かし、その砂を道具で返してはまた天日に乾かした後に集め、そこに潮水を注ぎ、たまったものが濃度の高い潮水「かん水」と呼ばれます。さらに、このかん水を釜で煮つめて荒塩にし、三角錐の土器につめて焼き固めた堅塩が献上されるのです。

今年は採かん作業時がちょうど長雨にあたり、五日間しか作業ができませんでした。また、その濃い潮水を煮つめる作業も二日間に短縮されました。

御塩浜では、心配そうに空を見上げる奉仕人の姿がありました。浜から望める朝熊山に雲がかかっているかどうかで天候を予想しているそうです。山頂の鉄塔が見えていると作業に最適、雲がかかってくると要注意です。天候不順の今年は、浜を広げて天日で乾くのを待っていると、にわか雨があつたりして、塩作りには不適な夏でした。

ならば、お米はどうなのだろうと尋ねてみると、米の収穫にはさほど影響はないようで、神宮神田では例年通り抜穂祭が九月上旬（今年は九月一日）に行われます。

少しほっとした晩夏の便りでした。

文 千種清美

